

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人
第5学年	国語	57人	算数	57人	理科	57人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

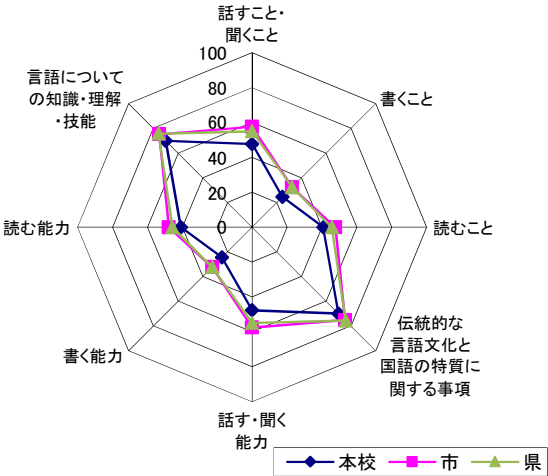
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	47.6	57.5	54.9
	書くこと	24.5	32.3	32.3
	読むこと	40.8	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	47.6	57.5	54.9
	書く能力	24.5	32.3	32.3
	読む能力	40.8	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	70.0	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

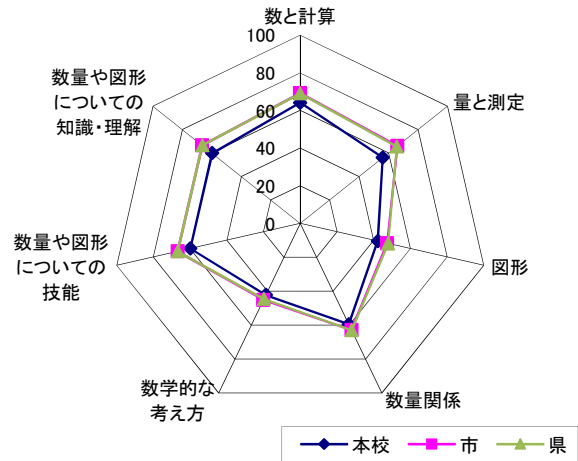
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●話の中心に気を付けて聞き自分の意見を述べる問題の正答率は、16.3%で県の平均を7.3ポイント下回った。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する問題の正答率は61.2%で県の正答率を4.5ポイント下回った。	・記述式に対する抵抗感が大きいので、各教科でも自分の考えを書く活動を多く取り入れ、書くことへの抵抗を少なくしていくようにする。 ・話し合い活動では、司会の役割を交代し多くの児童に経験させる工夫をしていくようにする。
書くこと	●文章構成を意識し内容を工夫して報告レポートを書く問題の正答率は、42.9%で県の平均を8.1ポイント下回っている。また、無回答率も大きい。 ●メモを基に、報告レポートに記述する内容を考えて書く問題の正答率は26.5%で県の正答率を3.3ポイント下回った。	・記述式の問題では、無回答率が高い。今後、決められた文字数で自分の考えやまとめ、感想を書くなど、書く体験を意図的に授業に取り入れていく。 ・国語に限らず、他の教科でも、メモから簡単な文章に表す、報告レポートに書く、などの機会を多くしていきたい。
読むこと	○物語文を読んで叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読む問題は正答率87.8%で県の正答率を1ポイントを上回った。 ●目的に応じて文章を要約する問題では、説明文を要約する問題の正答率は、59.2%で県の正答率を8.9ポイント下回っている。	・物語文を読むとき、登場人物の気持ちを考えるだけでなく、叙述に従って、どんな性格か物語の中でどのような役割なのかなどを考えられるよう指導を工夫する。 ・説明文の読み取りをする時、段落ごとの大切な言葉を確認したり、段落相互の関係を捉えるなどを意識した指導を心がけていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○日常使われている簡単なローマ字による書き方の問題の正答率は、75.5%と県の正答率を16.2ポイント上回っている。 ●全ての漢字の読み・書き問題で、県の正答率を下回っている。	・学習した日常使われている簡単なローマ字を繰り返し学習できるよう家庭学習に取り入れる。 ・漢字練習の仕方を工夫したり前学年の漢字も折に触れて学習できるよう家庭学習や朝の学習などの工夫をする。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.2	69.2	69.1
	量と測定	56.1	66.1	65.6
	図形	42.3	47.4	48.0
	数量関係	59.5	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	42.2	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	59.9	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	59.9	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

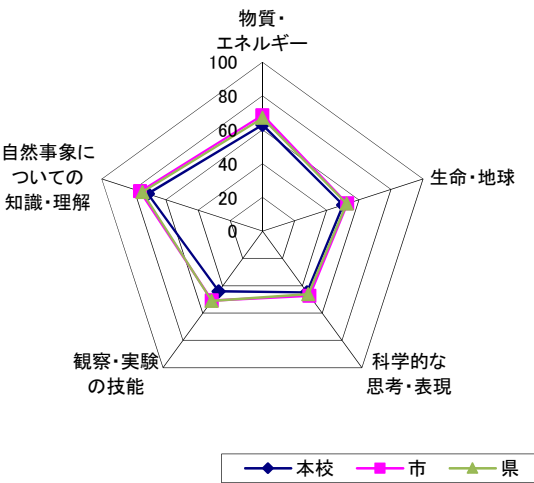
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数と分数の大小関係を不等号を用いて表す問題では、正答率93.9%と県の平均を5.2ポイント上回った。 ●領域の平均正答率は64.2%で、県の平均正答率を4.9ポイント下回った。 ●数直線上で万の単位の数を読み取る問題では、正答率65.3%で、県の平均を19.1ポイント下回った。	・計算ドリルやプリントを活用し繰り返し練習させ、確実に点数をとれるよう指導する。 ・数直線を自分で書くなど、値の関係について繰り返し練習する。
量と測定	●領域の平均正答率は56.1%で、県の平均正答率を9.5ポイント下回った。 ●はかりに示された重さを読み取る問題では、正答率73.5%で、県の平均を15.8ポイント下回った。	・無回答率の高かった問題については、授業で取り上げ、もう一度取り組ませる。
図形	●領域の平均正答率は42.3%で、県の平均正答率を3.1ポイント下回った。 ●円周上の点Aを通る直径を定規を使って作図する問題では、正答率49%と、県の平均を15.8%下回った。	・途中で投げ出さず、最後まで根気強く問題に取り組めるよう、長い文章問題への抵抗感を減らす工夫をしていきたい。
数量関係	○表や棒グラフからわかる正しい内容を選ぶ問題では、正答率69.4%と、県の平均を4.1ポイント上回った。 ●領域の平均正答率は59.5%で、県の平均正答率を3.6ポイント下回った。	・ドリルやプリントを活用し、家庭で学習できる機会を増やす。等分除や包含除の意味をもう一度復習する。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.9	68.6	66.9
	生命・地球	50.2	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	44.9	47.4	46.2
	観察・実験の技能	44.1	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	71.4	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○反射させた光を重ねたときの明るさの違いについての問題では、正答率57.1%と、県の平均を5.5ポイント上回った。 ●領域の平均正答率は62.9%で、県の平均正答率を4.0ポイント下回った。 ●豆電球のつき方から箱の中の回路のようすを推測する問題では、正答率30.6%と、県の平均を14.9ポイント下回った。	・実験などを多く行い、身をもって体験させる。その際、実験道具に触れる時間を十分にとることで、実験道具の使い方やしぐみについても理解できるようにする。
生命・地球	○虫眼鏡の適切な使い方を選ぶ問題では、正答率55.1%と、県の平均を9.7ポイント上回った。 ●領域の平均正答率は50.2%で、県の平均正答率を2.2ポイント下回った。 ●昆虫の口のようすと食べ物との関係についての問題では、正答率57.1%と、県の平均を18.0ポイント下回った。	・観察などに行き、実際に見たり触ったりする経験を増やす。 ・実際に見ることができないものは、映像などを用いて、印象に残るようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は自分のためになっている」と回答した児童は100%で県の肯定的回答を5.6ポイント上回っている。また、「先生は学習のことについてほめてくれる」と回答している児童は94.0%で、県の肯定的回答81.7%を大きく上回っている。今後も一人一人の学習の様子を見取り励ましたり児童の学習の状況に合わせた課題を設定したりしていきたい。

○「人と話すことは楽しい」と回答している児童は100%で人間関係が安定していると考えられる、今後も学級の児童同士の間人間関係に気を配り、一人一人が生き生きと楽しい学校生活を送れるようにしていきたい。

○

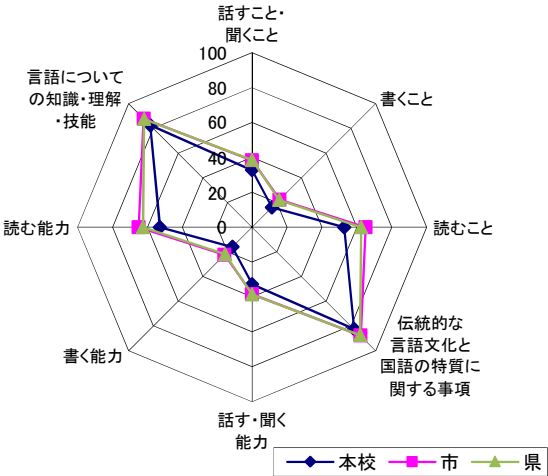
●「学校での出来事を話し合ってる」と回答した児童は80%だが、「学習に付いて話している」児童は66.6%と県の肯定的回答72.7%を6.7ポイント下回った。家庭でも児童の学習に関心を持ってもらえるよう学年だよりや学級懇談などの機会を有効に活用していきたい。

●宿題や決められた学習については取り組んでいるが、「学習に対して進んで取り組んでいる」と回答した児童は64%と県の肯定的回答72.6%より8.6ポイント下回った。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」は70%と県の肯定的回答82.6%を12.6ポイント下回った。学習することの大切さを折に触れて話したり、自主学習にはどのように取り組むのかを具体的に指導していきたい。

宇都宮市立小学校西が岡 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	32.7	38.3	38.5
	書くこと	16.0	22.3	21.9
	読むこと	52.8	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.6	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	32.7	38.3	38.5
	書く能力	16.0	22.3	21.9
	読む能力	52.8	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	82.6	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

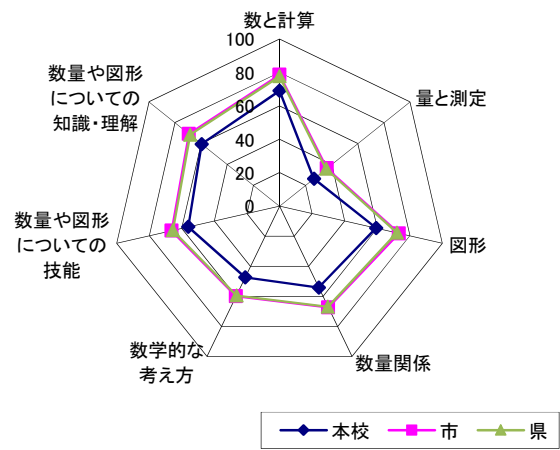
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○考えの共通点や相違点を整理しながら聞く問題では、正答率61.1%と県の平均を1.7ポイント上回った。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する問題では、正答率29.6%と県の平均を10.9ポイント下回った。	・全教科で、話し合いをする場を設け、経験を増やす。実際の話し合いの中で、自分のすべきことを気づかせる。 ・司会者の役割について理解するため、全員が司会を経験できるように、場を工夫する。
書くこと	●文章構成を意識し、内容を工夫してリーフレットを作る問題では、県の正答率を8.8ポイント下回った。 ●メモや友達の意見を基に、リーフレットのまとめを書く問題では、県の正答率を7.7ポイント下回った。	・作文指導の際は、文章の量や取り組みやすい内容を精査して、誰もが取り組みやすい工夫をする。 ・苦手意識のある児童に対する手立てとして、文中に用いられるキーワードや展開例を提示する。
読むこと	○中心となる語や文に注意して読み取り、小見出しを付ける問題では、正答率が県の平均に近かった。 ●書こうとすることの中心を明確にして、書くことを読み取る問題では、県の平均を17.2ポイント下回った。	・教科書の本文を読み取る際、自分なりに線を引いたり印をつけることで、読み取りの精度を高めたい。 ・教科書以外の文章にふれる機会を増やし、読み取りの経験を積み重ねたい。プリント学習や読書を中心に行いたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○修飾と被修飾の問題では、正答率79.6%と県の平均を1.5ポイント上回った。 ●領域全体では、県の平均正答率を4.9ポイント下回った。 ●全ての漢字の読み書き問題で、県の正答率を下回った。	・漢字については、正しい読み書きを身につけられるように、ドリル練習を徹底する。 ・国語辞典の使い方については、国語以外の学習でも積極的に活用していくことで、児童がふれる機会を増やす。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.1	78.6	77.7
	量と測定	26.4	36.3	35.7
	図形	59.3	73.3	72.1
	数量関係	54.2	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	47.4	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	56.0	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	59.6	69.4	68.5



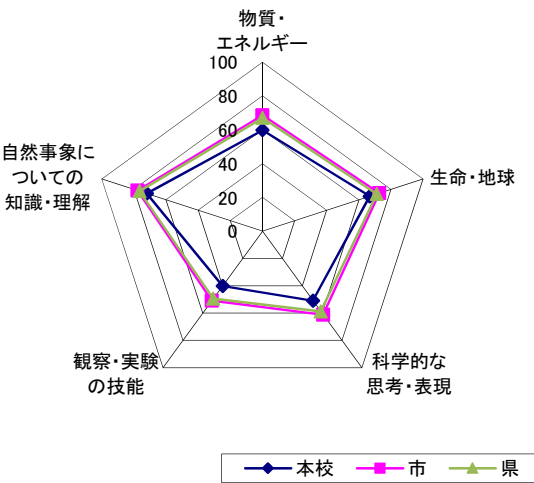
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の平均正答率は69.1%で、県の平均を8.5ポイント下回った。 ●帯分数を数直線に表す問題では、正答率72.2%と県の平均を17.0ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な計算問題のドリル学習を徹底する。分数・小数の仕組みを理解させたり、分数・小数の計算に慣れさせたりする。
量と測定	●領域の平均正答率は26.4%で、県の平均正答率を9.3ポイント下回った。 ●1㎡の正方形は1cmの正方形何枚分かを求める問題では、正答率が31.5%で、県の平均を14.8ポイント下回った。	・例えば1㎡や1cmの広さを、児童が実際にイメージできるようにしたい。数字を計算するだけでは理解が難しいので、日常生活に置き換えて、理解を促したい。
図形	●領域の平均正答率は59.3%で、県の平均を12.8ポイント下回った。 ●与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成させる作図の問題は、県の平均を19.8ポイント下回った。	・再度、図形についての理解を基礎基本の学習から徹底する。その上で、実際に図形をかく問題練習を繰り返すことで、様々な問題に対する対応力を高める。
数量関係	●領域の平均正答率は54.2%で、県の平均を12.7ポイント下回った。 ●基石の並べ方と基石の個数の関係を式で表す問題では、正答率が33.3%で、県の平均を31.1ポイント下回った。	・ドリルやプリントを活用し、多くの文章問題を繰り返し解かせる。まずは、問題において、何が分かっている、何を求めるのか、理解させたい。 ・問題中の言葉の関係を慣れさせるため、図で表したり、式にまとめたりする学習の機会を増やす。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.7	68.6	67.0
	生命・地球	66.8	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	50.9	61.2	58.8
	観察・実験の技能	40.1	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	72.0	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○閉じ込めた空気と水の性質についての問題、物と重さに関する問題では、県の平均に近い結果となった。 ●領域全体では59.7%で、県の平均を7.3ポイント下回った。 ●電気のはたらきについての問題では、県の平均を12.4ポイント下回る結果となった。回路図に関してある程度の理解はあるものの、実物と図説が合致しない傾向が見られた。	・予想・実験・実験過程・結果などを丁寧にまとめて、基礎の定着を図る。また、記述式の問題に答えられない児童が見られるため、その実験結果を十分に自分たちで考察させて、自分の言葉でまとめたり、表現させたりする活動を重視する。 ・理科の器具の正しい使い方について、なぜそのような使い方がよいのか、児童に理解させながら指導していく。 ・実験の際に、それぞれの実験を行う意味や内容を理解させ、自分なりの予想を立ててから実験に取り組ませる。また、実験結果とまとめでは、キーワードをもとに予想と結果を比較させる機会を設ける。
生命・地球	○人の体のつくりと運動についての問題では、県の平均に近い結果となった。 ●領域全体では平均正答率66.8で、%で県の平均より4.3ポイント下回った。 ●太陽と地面の様子についての問題では、県の平均を10.4ポイント下回った。	・理科の学習に意欲的に取り組むためには、普段の生活の中で自然科学的な事象に興味関心を持たせられるかが大切になってくると考える。長期的に取り組んでいきたい。 ・正しい実験方法や観察の重点をおさえながら取り組みせ、気付いたことを自分の言葉やキーワードをもとにまとめていけるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「家の人と将来のことについて話すことがある」との問いに81.5%の児童が肯定的に答えている。将来のことを考えることは、本人の学びに大きく影響していくので、継続していただきたいと考える。	
○「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」に対して、肯定的な回答が県平均より10ポイント以上上回っていた。先生から学習についてほめられているという回答も良好な回答が多く、学校・家庭で子どもたちの自己肯定感を高めるために、今後も協力して声を掛けていけるようにしたい。	
○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」と感じている児童が県平均より上回っている結果となった。「できた」「分かった」をより実感できるように、全体・個々への指導に留意し、自ら学んでいこうとする意欲を高めるようにしていきたい。	
●「家で学校の授業の復習をしている」についての回答が県平均より、20ポイントほど下回っていた。授業の進み具合に合わせ、ドリル等の宿題は出しているが、自分で考え、自主的に取り組んではないという意識であることも考えられる。宿題や自主学習を何のために取り組むのかを、より自覚させるようにしたい。	
●「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定的回答が県平均より16ポイントほど下回っていた。発表・発言を促す声掛け、場面は授業の中で必ずあるが、発表に自信を持てずにいる児童が多いものと考えられる。多くの児童が発表し、みんなで学びあう集団になれるように、発表を促す声掛けや場面の設定に留意したい。	
●「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の肯定的回答が県平均より15ポイントほど下回っていた。また「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定的回答も県平均より下回っていた。興味関心を喚起できるように、いろいろな話題を提示していきながら、少しでも学びに向かっていこうとする意識を高めるようにしたい。	

宇都宮市立西が岡小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
話し合い活動の充実	授業の中で意図的にペア学習グループ学習を取り入れている。	4年生は友達と話し合うとき友達の話や意見を最後まで聞くと回答した児童が92%5年生も96%と市の肯定的平均を上回っている。
個に応じた指導の工夫（算数）	授業の導入、児童が取り組みたいと思う課題の設定、体験的な学習や習熟度別、グループ学習などの授業の形態を工夫する。	4・5年生共に「授業はよく分かる」と回答している児童は90%を越えている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「計画的に学習に取り組んでいる」や「予習している」「自分から進んで学習に取り組んでいる」など市の平均よりいずれも低い結果であった。	自主的に学習に取り組む態度の育成	各学年の発達段階に合わせた「自主学習の手引き」を作成し配付したり、学習チャレンジ週間に、自主学習ノート賞を設け各学級でよい取り組みを取り上げ紹介したりする。「リレー自主学習」で、他の児童の取り組みを見られるようにする。